

1月16日（金）布施小学校

いのちの授業 感想

人間は、いつも支えてもらっているから気持ちよく生きていたと思いました。人間が1人だったら、なんの問題も解決できないし問題すら起きないから、人間がいっぱいいるから、問題も起きるし解決もできるし支えられている人もいるってということがわかりました。自分がいつも、支えてもらっている人たちに、いつまでも支えてもらうんじゃなくて支えてもらってる人に逆に自分が支えたり、感謝したりできたらめっちゃめっちゃいいなと思いました。いのちの学習のときに、自分が選べて嬉しいものを選ぶっていうのがあったけど、それはある程度自分で選ぶものがないと楽しくないけど、自分で選び過ぎたら好きにしすぎて、間違ったことになってしまうんじゃないかなと思いました。だから、自分で選ぶときは選んで、選んでもらうときは選んでもらうっていうのがいいなと思いました。

命の学習をして自分の命や気持ちについて知ることができた。相手の気持ちをキャッチする方法などを理解することができました。普段の会話でも少し意識していこうかなと思いました。ドラマみたいなを見て、確かに自分もあんな感じに言われてイライラしたり起こったりしたりするかもしれないので、会話を意識しようと思いました。今回の学習で自分の気持ちに気づくことや穏やかにする方法学びました。ふだんのせいかつでも、すこしつかえそうだなとおもいました。相手とのコミュニケーションが大切なのはわかっていたけどどう関わったら良いのかも知ることができたので良かったです。

今回の学習では命の大切さなどを知ることができました。動画などを見て、簡単に人の気持ちをわかったようにするのは違うということにも気づきました。自分はいつも人が困っていたら自分も知ったかのような気持ちになっていたけど実際には相手はそれをどう思っているのかもわからないわけなので自分ももっと気をつけて発言などをしたいなと思いました。あと相談などをされたときに、そうだよ、とか相手の気持ちを尊重することが大切なんだと今回のいのちの学習で知ることができました。自分も実際に嫌だと思うことをいくつか経験していて、そう言うときに友達から言われて嬉しかった言葉とかがあったので自分も相談に乗ってあげる時などにそういう言葉を使えたらいいなと思いました。自分では当たり前のことが人によってはとても難しいことかもしれないことを馬鹿にしたりなどをしないっていうのは当たり前だけど、やっぱり何かに苦しんでいてつらい気持ちですごしている人たちの気持ちを踏みにじるような行動は自分は絶対にしたくないなと心から思いました。自分では学校に来るのが当たり前だと思っても、実際には学校に行けなくて苦しんでる人や、何かの病気で行けない人たちにとっては学校がとてもつらいことかもしれない、だからこそ自分も、そういう人たちが悩んでる気持ちを少しでも分かりたいと思いました。テレビの映像でも、学校に行きたくてもお行けない子供の人がいたから、改めてそういう人たちもよな中にはたくさんいるんだと実感できる学習になったんじゃないかなと自分は思いました。

命の学習では人と話すときに相手が言ったことをもう一回言ってつけたして〇〇だねとつけるといい

とわかりました。だから使える場面になったら思い出して使ってみようかなと思いました。ドラマ？を見て確かに自分があんま状況なのにあなたの気持ちがわかるなんて言われてもイライラするなと思いました。だから苦しんでいる人にはその人がいいたい本当の気持ちに気づいてあげないといけないんだなと思いました。ドラマみたいな状況になっている人がいたら今回の学習を思い出してみようと思いました。けど何回も何回も自分の言ったことが言い返されると自分は逆に嫌な気持ちになってしまいかもなと思いました。だから言い過ぎには気をつけようかなと思いました。

苦しみの状況で頑張れるのは支えがあるからって聞いたときに確かにって思いました。逆に支えがなくなったときには頑張れないなって今思いました。そして苦しみの状況で嘘をついたりするんじゃないくて反復したり話を聞いてあげて同調とかしたらいいんだなってわかりました。自分が苦しんでいる状況になったとき、このようにしてもらえると確かに心がふっと軽くなるなって思いました。そして無言の時間も大事なんだなってわかりました。一回自分の心を整理して相手に伝えたいのに、こういう時間がなかったら伝えたいことを伝えられなかったり、間違えたことを言うてしまうことがあるから、自分が聞く側になったときに無言の時間を作ることを心がけたいなと思いました。

今回のいのちの学習で今までの自分では気付けないことなどを知りました。そして苦しみとは理想と現実の開きということを知って今までのことを考えたら確かに苦しみは理想と現実の開きがあって辛かったり苦しかったりしたんじゃないかなと気づきました。今まで気づけなくてなんで苦しいのか、なんで辛いのがわからなくても今回の学習でなぜ苦しいのかその理由を知ることができました。そして今苦しくても支えがあればおだやかになれたり自然と笑顔になれたりするということを知ることができました。そして今苦しい人がいたら反復で相手を支えるように声をかけたりすることが大切なんだと知りました。

今回の命の学習では自分が普段生活している間には気づくことのできないようなことばかりでした。苦しさなどを知る機会は自分が普段体験していたとしてもあまり詳しいことには気付けないことも多く、そして苦しいときのどんな感覚で苦しいのかなどを考える暇もないからこそとても今回の命の学習ではとても大切で良いことをしれたのではないかなと思いました。今回の学習でわかったり気づいたことは例題として身近に感じる苦しさなどは自分でも本当だなぁと思ったり、共感できることも少なくありませんでした。例えば●●さんが当てられ述べていた「眠たい」と感じたときも苦しいという分類に入るものなんだということも新しく知りました。「眠たい」などは「解決がしやすい苦しさ」ですが、命の学習のために作られたショートドラマの主人公として出ていた役のような「学校に行けない」などや「行くのが怖い」などの「苦しさ」、「感情」は「解決が困難な苦しさ」になることを知りました。その苦しさは2つとも「苦しい」という感情ですがあまりに似ても似つかない「別物」であることを知りました。そして苦しさには大きく分けて2つのパターンが有るということも知りました。その苦しさを少しでもなくせる役目が「支え」であるということも知りました。自分も苦しいと思った経験は何度もありました。昔かかっていた病気では喉が腫れて息ができない状態があったりしました。寝ているときに息が詰まって感じた「苦しさ」とそしてその苦しさをなくすために行う手

術をするときの「不安や怖さ」が積もってできた「苦しさ」もあったなと今まで以上に実感しました。

手術が終わったあとでも痛みが続いてしんどくて苦しいと思うこともあったり、それ以外の手術でもやはり克服ということはできなくて怖くて苦しいという時もありました。それでも頑張れたのは家族の「支え」があったからだと思いました。喉の手術はしなければいつ息ができなくなってもおかしくなかったと思います。けれどその手術を頑張れたのも家族の「支え」、そして自分の思いがあったからそだということもわかりました。今でもしんどかったり苦しいと思うことが少なくはありません。

けれど今回の命の学習では支えになってくれる人は案外近くにいるということにも気づくことができたし、周りに助けを求めるのは怖くて緊張するだろうけど手を引っ張ってくれる存在も案外近くにいるということにも気づくことができてよかったなと思いました。

苦しみは人によって違うけど意味はやっぱり一緒なんだなと思いました。希望と現実の開きが大きいほど苦しむよなと思いました。自分の支えを大切にしようと思いました。私の苦しみを聴いてくれる人がいると安心するし反復をして話してくれると少しでも私の苦しみをわかってくれるんだと思うからいいなと思いました。話を聞いて自分も人が苦しんでいる時反復を使ってみようと思いました。動画を見てちゃんと聴いたり間があると苦しんでいる人が少し軽くなって話してくれるんだと思いました。自分がしたことを相手が喜んでくれたり褒めてくれるのは嬉しいなと思いました。自分が何かをしたときに喜んだ反応をしてくれるとやってよかったなとか自分も嬉しいなと思いました。最後の Nana さんのことで一人で頑張らないでが一番心に響きました。迷惑をかけないように思っているととても苦しくなるけど他の人と協力すると苦しくなくなるかもとかを思いました。この勉強をしてわかったことは苦しみは一人で抱え込まずに支えとなるものを大切に反復をして話を聴いてあげることで相手がわかってくれたと思うということを知りました。今日学んだことを使ってこれから人が苦しんでいるときはちゃんと反復して聴いてあげる、自分が苦しんだときは自分の支えで穏やかになる。

苦しみとはなんなのか・その苦しみを理解してあげるためにはどのような行動をすればいいのかを考えることができました。苦しみとはなんなのかっていうと、希望と現実の開きだということがわかり、確かにそうだなと思いました。だからもし苦しみがあれば、その希望を叶えられるようにするにはどうしたらいいのかっていうのを考えようと思いました。苦しみには2つの種類があって解決できる苦しみと解決できない苦しみがあって、自分は他人に相談することが少し抵抗感があるから、自分で解決できる苦しみは自分で解決するようにしているけど、自分で解決できない苦しみは今までほっとくようにしてたけど、周りに頼むということも大事だなと思いました。苦しみを理解してあげるためにはどのような行動をすればいいのかっていうので、反復という方法をつかって、苦しみを言ってくれた人の言葉を同じように言うっていう方法で、確かにちょっとわかってくれたと思うこともあるなと思ったし、だからといってこの方法ばっかやってると自分がその苦しみを言ってるときにずっと同じ言葉を言われたらちょっといらってするなと思ったから、ある程度反復したら、違う言葉をかけてあげることも大事だなと思いました。それで自分には頼れる人はいるし、夢もあるから、頼れるときはその頼れる人に言うように頑張りたいなと思ったし、その夢に向かってる最中にもいろいろな苦しみがあったりするけど、相談したりするとかそういうことも頑張らないといけないなと思いまし

た。

いのちの学習を聞いて、感じたことは、自分は苦しみがどんなのかが、はっきりと分かっていなかったけど、希望と現実の開きということがわかりました。苦しみにも種類があって解決ができる苦しみなのか、解決が難しい苦しみがあることもわかってわかりました。でも苦しみがあっても支えがあれば人は穏やかになることもわかりました。人が苦しいことを人に打ち明けるときに、相手は無理に励ますんじゃなくて、その言葉をしっかりとキャッチして、少しだけ間を開けて、しっかりと言葉にして返すことが大切だということもわかりました。人によっても苦しみは違っても意味は一緒だし、その苦しみは、自分にしかわからないから無理に何かをさせないことも大事だということもわかりました。Nana さんの話を聞いて自分も同じなんじゃないかなと思いました。自分も苦しい時があったら一人で、頑張るんじゃなくて、誰かに話すことも大事だということもわかりました。

いのちの学習をして感じたのは何かをしたいなあなどの解決できる苦しみと解決できない苦しみがあるってということがわかりました。苦しみとは希望と現実の開きってということがわかりました。苦しみがあったとしても支えとなる関係や選べないと辛いこと選べると嬉しいことや将来の夢などの支えがあったら嬉しいって言っていて確かにと思いました。反復という方法は実際に使おうと思ったし反復するときに少し間を入れるのもいいなあって思いました。確かに反復をしてくれるとそうなんだって思うなあと思いました。わかってくれる人は自分のことを聴いてくれる人だって教えてくれました。

今回のいのちの学習を通して命の大切さ苦しみについてや人との接し方について深くしれたなって思いました。私は些細な嫌なことなど憂鬱と思うことをするときなども苦しいとは思わない人だけど、人によって苦しいと思う限度やタイミングは違うなって思いました。だからじぶんがもし苦しそうな人を見つけて話を聞いたとしても絶対に自分の苦しいのラインを押し付けちゃだめだなって思いました。人が勇気を出していったことを軽んじたらだめだなって改めて思いました。後は今回教えてもらった反復というものも使えるようになりたいなって思いました。ドラマみたいなものを見させてもらって自分が苦しいときに人にわかった口をされるのは腹立つしイライラしちゃうなって思いました

自分もたまに苦しいとか思うからたしかに現実と理想の間だなと思った。あんまりそういう場面はないけど、そうなんだねってくり返し使ってみてもいいかなと思いました。あんまり覚えていないけども、結構いい喧々になったかなと思いました。解決可能な悩みは解決していったらいいなと思いました。やっぱり人間は頼れる人がいないとだめなんだなと思った。サッカーとか最近きつくなってサッカー行くのが嫌だな～って思うことが多くなってきたから、頑張ります。悩みは結構あるけども相談できる人は自分は今はいないからいつか作れたらいいなと思いました。自分は信頼されて、相談される友達を作ればいいなと思いました。あんまり覚えていないから話した内容と書いている内容が違うかもしれません。

私はいのちの学習は病気とか妊娠とかの話だと思ってたけど、今回の話を聞いて病気や妊娠など以外

にも命に関わることもあるんだなと思いました。苦しみっていうのはもっと大きな事を言うのかと思ってたけど自分がちょっと嫌だなーって思ったことも「苦しみ」何だなと思いました。苦しいときに支えになるものとかあんまり考えないから今回の話を聞いて考えられたので良かったです。前までは苦しむ人を前にしてもどうしたらいいかわからなかったけど今回の話でどうすればいいのかもわかったし相手の気持ちもしれたから良かったです。これからは今回聞いた話を活用して自分が苦しくなったときや苦しむ人を前にしたときにできることを出来るように今回の話を活かそうと思いました。

いのちの学習ってどんな事するのかなと思ってたけど、授業を聞いていると、苦しさがあってもどうやったら穏やかにいれるかななどのことについての話なんだなとわかりました。苦しみは「希望と現実の開き」というのはたしかになぁと思いました。いろんな苦しみでも、希望と現実が違うから苦しみがあるんだと思ったからです。そして、わかってくれる人がいるというのは、気持ちに寄り添ってくれる人がいるということだと思って、気持ちに寄り添うっていうのが、今まで勉強してきた、平和の学習にも繋がるかなとも思いました。反復や聴くということが、苦しんでいる人が目の前にいるときに、必要なことというのもわかったし、否定せずに寄り添うっていうのが一番大事だとこの授業を通して思いました。これから、どんな事があるかはわからないけど、この授業を思い出してやっていきたいと思いました。

今回の学習では、苦しみは大きく分けて、2種類あって、そのうちの苦しみやすいのが解決しにくい苦しみと言うんだと知りました。そして苦しみが何故起きてしまうのかは、自分の今の現実と、こうなったら良いなという自分の欲望の差が苦しみにつながってしまっていると知りました。僕も何度も現実と理想を比べて来たことがあったからとても共感できました。例えば学校や時間を忘れてずっとゲームをしていたいという気持ちで一廃になったことがありました。そのように苦しみは人の心には必ずどんな人でもあると知りました。他にしれたことは、誰かが苦しんでいたときに反復を使って、話を進めていくとその人が自分のことをわかってくれたと思い本当の理由などを話すようになるということを知ったので、今度からは誰か友達とか、家族がそういう状況になってしまっていたら、反復を使って、理由などを聞いてみようと思いました。